

商店会加入促進や、自治体や大学との連携の取り組み		面談年月
小岩駅前通り美観商店街 会長 吉田 義昭氏、 江戸川区生活振興部産業振興課長 白井 正三郎 氏 (現 経営企画部企画課長)		H18年3月
(活動のフィールド) 東京都江戸川区 小岩駅前通り美観商店街		S47年 カラー舗装、フラワーボックスアーケード板、アーケード放送設備が完成。 S60年 電柱の地中化、地上6mのアーケードと、入口には花壇とモニュメントが完成。 H14年 商店街の2カ所に「電飾掲示板」を設置。 H15年 地域のために、小岩地区町会と連携を取り、防犯カメラを設置。
活動内容		
<ul style="list-style-type: none"> ・ フLOWERロードは江戸川区内で210店舗という最大の商店街。 ・ ハード面では全長1800mに及ぶアーケード、放送設備、電飾掲示板、フラワーボックス、カラー舗装。 ・ ソフト面では、時代の変化と共に、サポーター制度(ポケット隊15名)催物(ポケットハウス)設置、防災フェア(区・防災課・小岩消防署)などを実施。 ・ 小岩駅前通り美観商店街、千葉商科大、江戸川区がH16年6月に「えどがわ商店街産学公プロジェクト」事業に関する覚書を調印し、産学公連携による地域の核となる商店街の新たなモデル像を調査・研究・企画・実施。その成果は、区内商店街全体に波及させていくことを目指している。 ・ 千葉商科大が協力し、フラワーロード商店街にて、世界の著名な大都市に住む人々の暮らしを、文学作品や映画を通じて紹介する文化講座をH16年に4回実施。 ・ 千葉商科大学の学生による商店街活性化対策の研究発表が、H17年3月に開催され、発表会の会場には商店主など約100名が出席。「小岩＝恋話」恋にまつわる話題に満ち溢れた街づくりなどの提案を受ける。江戸川区は平成17年度予算に1000万円を計上し、今回の提案を基にした支援事業を実施。 		
「都市再生の担い手」として事務局が注目した発言等		
<p>この30年間、常に「これで良い」と思ったことはなく、いつも色々な工夫と挑戦を続けてきた。そうした多方面の取組みをしないと街は生き残れないと考えている。</p> <p>できれば商店街に小型の公共施設があると有用だと思っている。会合のときに夢を語るのが大事。トップは元気が無くてはいけない。</p> <p>商店街はかつては文化の担い手だった。できれば、まだ商店街に底力があるうちに、小規模で良いから賑わいスペースができると良い。</p> <p>努力しないとダメ。考え抜くこと。飲んでる時も。そうすればひらめくこともある。犯人捜しをやっても役に立たない。行政依存症候群から脱皮すべきだ。</p>		
産学公連携したイベント	小岩あさがお市	花壇コンクール(地域をあげてのパレード)
		
地域のママさんコーラスの出演 「恋話物語」と「ジャズの夕べ」	各商店街が協力して実施	地域の小学生や町会も参加して飾られた花壇の間をパレード

インタビュー概要

(活動内容についての説明)

(小岩駅前通り美観商店街 吉田会長の話)

商店街の現状の取組み

小岩は昭和 8 年に鉄道が電化され住宅街が広がり、駅前商店街も自然発生的にできたが歴史は古くない。私の職業である魚屋業も、明治に製氷技術が出来てからの職業なので歴史は浅い。

30 数年前にできた青年会のメンバーがそのまま現執行部で頑張っていること、しかも同じ小学校の卒業生なのも珍しい。

直線距離で 970 メートルもある長い商店街であり、通り以外に各ブロック単位で予算を持って、ブロック独自のイベントや売り出しをやっている。

七夕やクリスマスの装飾は全部自分たちが電飾を購入して設置しているので低コストでできる。自分たちの街は自分たちで作るということをやっている。一方、60 代が頑張り過ぎで、若い人が入って来難いことが課題。私の次男も青年会議所の仕事に熱心。

商店街を取り巻く経済社会状況の変化とその対応

後継者難で、呉服店、家具店等の大きな店舗を構えていた店が廃業し、マツモトキヨシやジョナサン等のテナントに貸している。店のオーナーは商店会の仕事を手伝ってくれる。

商店会費は全て間口按分。大型店は奥行きがあるからと言って余分に徴収したりはしない。それでも加入しない場合には直に本部に手紙を出して直談判する。実情を話し、地元商店と同等の扱いだといえれば、大型店も加入してくれるし、イベントの作業等で召集を掛ければ人も出してくれる。

商店街活性化・まちづくりに関する工夫

日頃から活発にやっていると、何かよい事があるのかと、新規店舗も入ってくる。但し、美容院やクリニック系が増えてしまい、物販店が減ってしまった。

団結力や活動の継続についての課題や苦労話

後継者対策として、区では商人塾というのをやっている。今の若い世代は大卒で一般企業で数年働いてから地元に戻ってくるが、いっしょに飲んで盛り上がるのが好きじゃなく、誘っても商店街の飲み会に出て来ない。青年会とか趣味の会とかには出るのに、商店街の親父連中が煩いので出てこないのかもしれない。役員会は 18 名中半数の出席で成立し、過半数で可決することになっている。少数意見は聞くが、決定事項はどこまでも強力で押し進めるのが私の方針。基本的には困ったときにはすぐ会合を開く。恐れてはならない。

近隣商店街・町内会・大学・NPO 等との連携協働

小学 6 年生の一日店員制度を 12 年間継続してきている。また、チャレンジドリームと銘打って江戸川区の中学生 4,600 名を 5 日間、区内の商店街や工場など地域で預かる事業がある。当商店街で預かった際には、とにかく大きな声で挨拶ができること、来客時には「いらっしゃいませ」で迎え、きちんと敬語で接客することを強く教えている。

中高年や定年後の人を対象とした江戸川総合人生大学というのがある。そこの江戸川学科の方が空き店舗を利用して、年寄りや子供に茶を出したり、憩いの場を提供している。また、サポーター制度で 15 名のボランティアの協力を得ている。

平成 18 年度で 32 回を数える花壇コンクールでは、自分が実行委員長を務め、地域の各団体やボランティアを集め、盛大なイベントを実施する。

地域と一体になってやっていかないと生き残れないという認識でやっている。

商店街が地域のために果たす役割

配食サービスや福祉事業は、小岩仕出し弁当組合や病院で実施しているので商店街としてはやっていないが、独居老人の様子がおかしいとの声があれば対応できる体制にはしている。

今後行いたい取組と実現に向けた課題

産学公連携では、一昨年の調印式に多忙な加藤学長や区長も出席してくれ、学生の発表会にも来てくれて、大変励みになる。また、実務面では、産業振興課長、千葉商大の鈴木教授がサポートしてくれる。この産学公連携の中から、学生に4つの提案を頂き、それに対して委員会を立ち上げて取組んでいる。

- 『恋話物語』では全国 725 通の応募があった。商店街に若い人の関心を向けようと初恋もテーマに入れた。発表会ではジャズフェスティバルを同時開催して賑やかにした。
- 「一店逸品」を店主が企画制作。学生は、一店逸品で有名な呉服町商店街(静岡)や黒川温泉に出張し研究論文を作成。出張費は、商店街で支援した。
- 一店逸品は信念を持ってやらないといけないと思っており、大学側と商店街側で一店逸品委員会を発足することにした。
- フラワーバザールは年2回、開催したい。産学公連携の取組なので、公共施設も利用できるのが良い。
- それとコミュニティ誌も作成していく。

街中チルドレン構想は、3年間の産学公連携が始まる前から取組んでいる。丹青社の担当(小岩生れ・在住)に依頼して企画書を作って貰った。長期的な全体の活性化のためにはソフト的なものが必要と考えた。まだアイデアベースだが、例えば、せんべいを焼いているところを子供に見せてあげる。豆腐屋なら豆腐をつくる現場、自分の店舗なら魚河岸見学や魚を捌いているところを見せてあげる、など。空き店舗を利用して、駄菓子や甘味どころを設置すると、孫連れの高齢者の財布の紐が緩むだろう。この構想は駅周辺 700 店舗を巻き込まないと成り立たない。他の商店街の協力も得て、区も真ん中に子ども図書館とかプラネタリウムを作ってほしい。と言うわけで、これはこれから。

(江戸川区生活振興部産業振興課 白井課長)

商店街振興施策及び現在の課題と今後の展開の方向

区内の商店会の会員離れが進んでいる。

(施策の推移)

S60.4～ 街路灯やアーケード等ハード面の環境整備をすすめてきた。(区、都と各 1/3 負担)

H12.4～ 商店街の活性化のため、イベント助成(100～300万円程度)を実施。

区内 92 商店街のうち 44 商店街(69 事業)がイベントを実施している。

H14 年に江戸川区商店街振興プランを策定し、基本戦略プランの中でサポーターづくりを行った。これは、商店街の人は行政の意見は聞かないので、区民をグループ化して生の意見を収集し、商店会の人に消費者の声を伝える形をとっている。

また、特徴ある商店街を目指して、環境、福祉、文化等のキーワードに、H15 年度から区の独自施策としてモデル商店街を選定した。この第1号が小岩駅前通り美観商店街である。

商店会未加入問題については、16 年 4 月の東京商工会議所や日本チェーンストア協会等の「連携・協働の商業まちづくり共同宣言」の書面をもって、チェーンストア協会等に区役所も同伴してお願いすることで、これにより加入件数が 250 件増えた。つまり、区役所の役割は本部に口利きすることで、加入促進をしている。

商店街振興における行政の役割

振興プランを多くの商店街で実行して貰うことが現在の課題であるが、区役所としては補助金だけではなく、コーディネーター役を担いたいと考えている。

(えどがわ伝統工芸産学公プロジェクト)伝統工芸を活性化するのに、多摩美術大、女子美術大、東京造形大と連携し、伝統工芸師に半年間学生が弟子入りして技術を学んでもらった。イベントへの参加ではなく、学生のアイデアを生かして貰った。3年目に学生の作品が商品になったが好評で、デパートなどでも扱ってもらった。区が学校に払ったのは600万円程度であり、大学側もこの事業で文科省・現代GPを利用でき、都庁の展覧会に補助が出た等メリットがあったようだ。

今回の商店街における千葉商科大学との連携は、近隣であること、鈴木先生との人脈がきっかけ。学生にイベントに出て貰うのではなく、学生が空き店舗やフリーマーケットに関連してのアイデアを出して貰っている。電通や博報堂といった広告代理店にアイデアを出してもらおうと高い価格が必要だが、この場合は100万円を支払っているのみ。

双方とも学生のアイデアを重視したことが成功の要因と思っている。

行政は、商店会とNPO等とを結ぶコーディネーターまたは相談役になりたい。また、商店街に特色を持たせるためのプロデューサー的役割を担いたい。区役所職員にそんな能力は無い。区役所の役割は、ノウハウのある人を連れてくること。つまり、NPO、大学、消費者とのコーディネーター役になること。その意味で、学生は毎年変わっていくので、無限の可能性があると見える。

小岩駅前通り美観商店街の位置づけ

行政は、地元が手を挙げてくれないと動けない。その意味で、小岩駅前通り美観商店街が一番に手を挙げてくれるリーディング商店街。他の商店街はその様子を見ている。

大学と商店街の連携に関する苦労話や課題

商店街はプロの集団で、一方、大学は学者なので人によっては象牙の塔的な色彩が残っている。行政は、ある種その間の通訳となり両者を繋ぐ役割だと思う。

これからの課題としては、話題作りで終わらないよう、集客や売上の増加に繋がるようにしていきたい。

大学の中でも開かれた教授とそうでない教授がいる。

産学公の中での行政の役割は、単に資金拠出だけではなく、事務局的な役割が重要だと考えている。

（ 質 疑 ）

（ : 事務局、 : 吉田会長（または区 白井課長））

「連携・協働の商業まちづくり共同宣言」は、チェーンスーパー等に商店会への加入が宣言されているのか？ 同様の問題として、マンション等の新住民が町内会に加入しないことが地域の力を落としているとの問題も指摘されている。

「共同宣言」では「積極的に参画」という表現であり、「加入する」との文言までは盛り込めなかったようだ。

今やチェーン店を商店街に入れないと行ってられる状況ではなくっており、商店街の一貫として考えないといけない時代。【区 白井課長】

小岩駅前通り美観商店街にも通りに面したマンションがあるが、当商店街では、マンション建築時点で、当該建物で商売するか否かに関わらず、商店会に加入する旨を約束しないと、建築の地位協定の同意書に押ししないこととしている。無論、マンションが町内会にも加入しているが、商売していなくても商店街の通りに面していれば必ず商店会に加入させている。いわば商店街が町内会ようになっており、商店街も町内会に加盟しており、負担も一般住民よりかなり多くの資金を拠出している。

商店街の中にマンションがあることは、商店街にとっては安定的な顧客となるし、一方マンション住民にとっては、駅からの帰路が明るく安全な道を帰って来られるというメリットもある。【吉田会長】

学生の力を商店街の空き店舗活用に利用できる。例えば「えどがわ伝統工芸産学公プロジェクト」の成果を生かし、商店街の空き店舗で学生の実演販売をさせる等の試みも考えられる。空き店舗をむしろチャンスとして有効活用することも考えられる。

都市再生プロジェクトで「大学と地域の連携協働によるまちづくり」を決定したが、大学の経営方針としてやっている大学の方が発展性があるようだ。

作品を商店街の喫茶店に展示して貰うとか、空き店舗を活用した「お休み処」で学生が即売会を実施することは考えられる。また、空き店舗で地産野菜の小松菜の朝市的な試みを行っている。千葉商科大学はエクステンションオフィスが、産学公連携の窓口になっている。【吉田会長】

商圈は比較的広いようだが？

かつては江戸川区には小岩駅と京成小岩駅の2つしか商店街が無く、遠くからもお客が来てスリが出るぐらい繁盛した。今は12駅に商店街が出来て、商圈が狭くなった。

生鮮三品を扱う小売店がかなり減少した。例えば、魚屋は自店の商品のブランド力を活かして、お弁当・惣菜を扱わないと生き残っていけない。

この30年間、常に「これで良い」と思ったことはなく、いつも色々な工夫と挑戦を継続してきた。そうした多方面の取組みをしないと町は生き残れないと考えている。【吉田会長】

できれば商店街に小型の公共施設があると有用だと思っている。会合のときに夢を語るのが大事。トップは元気が無くてはいけない。【吉田会長】

余り強固な建物を建てるよりも仮設建物を設置して暫定利用する等、ユーザーの趣向の変化に柔軟に対応できる施設が良い。同じ場所で定期的に必ずイベントを開催していることが大事。

京都では、既存ストックを利用して、毎日決まった時間に音楽の生演奏をやっている。これにより人手が増え、周辺の空き店舗が埋まったとの話がある。

確かに、現在月1回の即売会は、当初は客引きだったが、恒常的なイベントになってくると、そのイベントを待っていてくれるお客さんも出てきた。

京都は商店街の裏の方でも面白いし、歩いて回れるし、街全体の雰囲気がいい。江戸川にはそうした目玉がないし、良いところは何かと考えさせられる。【吉田会長】

江戸川総合人生大学は、卒業生を区が NPO や市民団体に紹介する等を行っているか？
紹介はせず、2 年間の在学中に地域に戻ってやりたいことを自分で見つけてもらう(例:お風呂屋さんの活性化、伝統品の販売促進等)。第一期はかなり倍率が高かったが、第二期は一倍程度。
当区は「ボランティア立区」を掲げており、第一期の卒業生(9月予定)が地域に貢献してほしい。【区白井課長】

商店街の取扱商品は買回り品が殆どだと思うので、住民の意識を商店街に向けることが大事と思われる。地域通貨はやっているか？

地域通貨は江戸川区ではまだやっていない。【区 白井課長】

日常的に地域の住民の目を商店街に向けることが非常に大事だと考えている。そのためにも、いつも何か楽しいことをやっているということが大事。【吉田会長】

住居と店舗は別か？

当商店街では、210店中50店が店と住居が一緒。店舗と別に住んでいても、殆どは店舗のすぐ裏側に居住している。郊外に住んで通勤型商店街ということはない。

【吉田会長】

小学校は廃校があるか。また、余裕教室や給食施設等の活用を行っているか。給食施設の利用等により地域の目が小学校に集まると、児童の安全性が高まるとのアイデアもある。

廃校はないが、「すすくすくスクール」を行っている。区長が国会に呼ばれて紹介した。放課後等の教室・校庭・体育館など学校施設の中で、地域の方が三味線を教えたりしている。各家庭・児童の自己管理となる一般登録と、就労等によって、放課後留守になる家庭の児童を預かる学童クラブがある。大人が集まるので学校の安全にもつながる。

また、区は区内の公立中学2年生(4,600人)を対象に商店街、工場などで体験学習を実施しており、その中でも商店会は良くやってくれている。【区 白井課長】

歴代の代々商店会長が PTA 会長や町内会長をやっており、このような人の繋がりがあるので地域のために何かしてあげたい。大ボスがいらない。皆が地域のために一生懸命したい、という土地柄。【吉田会長】

30~50代の女性客の力を活用して、子育てを終えた助成を利用した子育て支援との試みはどうか？また託児所があればゆっくり買い物できる。

近所に子育て相談する人がいない。商店街に気楽に相談できる場所が欲しいとの要望はあるが、具現化していない。まちじゅうチルドレンも構想の1つ。【吉田会長】

地域と一体となって発展していくなかで、配食サービス、介護等の検討は？

電話のみで届ける宅配サービスをしたい。高齢者向けの給食の宅配や介護は行っている。商店街に介護専門業者が10件前後、既に出店している。

30年前は子ども中心に考えた。今は年寄りの問題が大事だ。【吉田会長】

防災の取組についてどうか？

フラワーロード商店会が中心になって、商店街に面した公園でポンプ車・起震車を呼んだ防災フェアを開催している。1つの商店会でここまでやるのは珍しいと自負している。ただし、あまりやり過ぎないように町内会等へも配慮する。【吉田会長】

駅前商店街のほかの2ヶ所の状況は？ 駅北側の大型店イトーヨーカドーの状況は？

小岩駅前通り美観商店街と連携した取組みもやっている。

イトーヨーカドーは、かつて売上トップを誇ったが、今はどこでもあるのであまり強い力があるとは言えない。小岩駅前通り美観商店街との競合よりも、周辺の中型スーパーの大量出店が主因。小岩駅前通り美観商店街の近隣に出店して欲しいが、小岩駅前通り美観商店街近隣ではまとまった土地がなく出店し難い。【吉田会長】

都内の商店街は地方の商店街に比べ恵まれていると思うが如何か

商店街はかつては文化の担い手だった。できれば、まだ商店街に底力があるうちに、小規模で良いから賑わいスペースができると良い。最近はコミュニケーションが苦手な子供が増えているが、商店街の賑わいイベント等は、子供が触れ合う機会になる。

東京の商店街は恵まれているが格差ができています。小岩ではかつてサンロード商店会が一番賑わっていたが、イトーヨーカドーが移転して寂れてしまった。

井原西鶴の話でも知恵と才覚を生かして成功した三井八郎右衛門高利のように、一生懸命やらなければ商店街に知恵はつかない。何かやっている、知恵がついてくる。アイデアと計数管理が大事。大型店が来たからといっても、どこかで生き残れる道はある。

努力しないとダメ。考え抜くこと。飲んでいられる時も。そうすればひらめくこともある。犯人捜しをやって役にも立たない。行政依存症候群から脱皮すべきだ。【吉田会長】

大学と地域との連携の事例で、支援は後からついてきた、という話がある。

その通り。産学公は行政からの話だが、そのほかは全て、後からやってきた。【吉田会長】

行政はファシリテーターとしてやる気を出してもらい、そのためにはやる気のある人たちをつなぐことが大事だと思うが。

江戸川区には課題が沢山あって、人生大学が現場でいいことをやろうとしている人の出発場であり、区は仲立ちとしてのコーディネーターを目指したい。【区 白井課長】

商店会長も町内会長も目立ちたがり屋が多く、外から参入して来る人に抵抗がある。そこで区が仲立ちをしてくれればうまくいくと思う。花壇コンクールも区の仲立ちで商店街がお金を出し、町が仕事をすることですうまくやっている。【吉田会長】

江戸川区は町会の力が強く、これは地域力としては良いが、人生大学を卒業した人はいままで地域と関係のない人が多いので、地域に戻ってきたときに防災・防犯・地域力などでぶつかり合うのではと危惧している。恐らく、町内会は受け入れないと思うし、卒業した人も入りづらいと思う。この人達の活躍の場を設けることが区の課題。【区 白井課長】

以上